

「環境未来都市」の取組の一環として 「十日市場駅勢圏域におけるまちづくりの推進に係る協定」を 神奈川大学と横浜市で締結します

このたび、環境未来都市「持続可能な住宅地モデルプロジェクト（緑区十日市場町周辺地域）」の取組の一環として、本日、神奈川大学と横浜市は、「十日市場駅勢圏域におけるまちづくりの推進に係る協定」を締結します。

これにより、**神奈川大学と横浜市は相互に連携しコミュニティ活動の活性化に寄与する取組**を進めます。

1 協定の内容

(1) 目的

十日市場駅を利用する圏域におけるまちづくりについて調査、研究等を行うことにより、横浜市の郊外住宅地の再生や活性化推進に寄与することを目的とします。

(2) 取組事項

- ① **地域への愛着を育む取組**に関する事項
- ② **交流・活動・居場所づくり**に関する事項
- ③ **地域の魅力の発信**に関する事項

(3) 協定期間

平成 29 年 2 月 9 日から平成 30 年 3 月 31 日まで
(取組の状況に応じて、毎年更新を行う)



【先行した取組】
十日市場たからもの探しワークショップ (H28. 11~H29. 1)

2 具体的取組

来年度までに着手する取組は以下を予定しています。

(1) たからもの探しワークショップ

学生と住民が一緒になって、地域のたからもの（魅力や好きなどころ）について話し合い、まち歩き、マップづくりを行い、一つの成果物にまとめます。

(2) 市民記者の養成

地域の魅力や情報を発信する住民グループの立上げを目指して、市民記者養成講座を行います。

(3) 地域の魅力発信

SNS 等を活用して、地元住民が知る地域の魅力・最新情報を発信できる場の立上げを行います。

【参考】横浜市が進める「持続可能な住宅地モデルプロジェクト」とは・・・

横浜市では、大規模団地等の住宅の老朽化、高齢化、地域活動の担い手不足、コミュニティの希薄化等の課題に対応するため、住宅地の再生や活性化を目指し、地域特性の異なる 4 つのモデル地区を指定して取組を進めています。

その 1 つである、緑区十日市場町周辺地域では、民間企業の高い意欲や技術力を活用して、郊外部の再生・活性化を実現するために、十日市場センター地区の市有地において、公募により事業者を選定し、横浜市と事業者が 50 年継続したまちづくりに取り組んでいます。

他のモデル地区は、①青葉区たまプラーザ駅北側地区 ②磯子区洋光台周辺地区 ③相鉄いずみ野線沿線地区です。



お問合せ先

建築局住宅再生課担当課長

鈴木 陽子

Tel 045-671-4458

温暖化対策統括本部環境未来都市推進課担当課長

内山 幹子

Tel 045-671-2477

○持続可能な住宅地モデルプロジェクトにおける本協定の位置付け

環境未来都市計画「持続可能な住宅地モデルプロジェクト」では、郊外住宅地の再生や活性化を目指し、地域特性の異なる4つのモデル地区を指定して取組を進めています。

地域特性を踏まえ、地域、民間事業者、行政、大学等が連携しながら、地域の課題（コミュニティの希薄化、子育て支援、医療・介護・福祉、地域交通、ソーシャルビジネス振興、エネルギーなど）解決に取り組み、住民が安心して暮らし続けられる、持続可能な魅力あるまちづくりのモデルを創り出します。

■ 4つのモデルについて

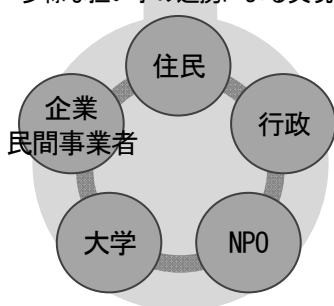
青葉区たまプラーザ 駅北側地区
協働事業者：東急電鉄(株)

緑区十日市場町 周辺地域
協働事業者：東急電鉄(株) 東急不動産(株) NTT都市開発(株)

相鉄いずみ野線 沿線地域
協働事業者：相鉄グループ

磯子区洋光台 周辺地区
協働事業者：UR都市機構

多様な担い手の連携による実現



■十日市場町周辺地域のまちづくりにおける「3つの視点」

【視点①】 多様な住まい生活サービス	多世代が暮らし続け交流する住まい
	日常の買い物、福祉・保健・医療サービスなど生活を支える機能
【視点②】 持続可能なエリアマネジメント	省エネ、エネルギーマネジメント、地域内移動、防災・防犯の仕組み
	地域の魅力向上や発信交流などの地域活性化の仕組み 住み慣れた住宅や地域での暮らしをサポートする仕組み
【視点③】 住み続けることができるまち	生活の質を高める住宅地を形成

本協定により推進